



雷国光
董事長 総経理

昭和興産の中国拠点、昭和興産(上海)貿易有限公司が2018年12月に設立15周年を迎えた。この間、樹脂原料および樹脂をはじめ、食品や家庭用品関連など幅広く商材を取り扱い、日系顧客の中国ビジネスに不可欠な存在となってきた。18年春には広州に分公司も設置。日系顧客向けに、よりきめ細かいビジネスを行うため昨秋には日本人駐在員も迎え入れた。事業基盤の整備が着実に進んできた。ここからは新規開拓にも注力し、経営のステージを一段高めたい。(雷国光董事長総経理) 考

昭和興産(上海)貿易は03年12月の設立で、設立当初に取得した危険化学品経営許可を有する強みを生かし、日本からの高性能製品の在庫販売と中国の有力メーカー製品の日本やタイ、インドネシアへの輸出を事業の

日系向け事業さらに深く



柱に据えている。従来、華南地区は香港から来てきたが、昨年3月には広州の連絡事務所を分公司に格上げし、自動車やスマートフォンなど向けの樹脂コンパウンドや機能性フィルム、ウレタン原料などの扱いを拡大していく方針。上海拠点とも連携し、武漢や重慶など内陸地域にも攻勢をかける

昨年10月には日本人駐在員を増員した。新規開拓はもちろん、既存の日系顧客にもより深く刺さり込み、市場ニーズに応じた新たなビジネス獲得を目指す。グループが20年を最終年度とする中期経営計画「SK2020」価値創造企業への挑戦の目標達成を目指すなか、中国で

も電気自動車(EV)向けの電池材料や有機EL(OLED)、食品添加剤などの新規開拓に努める。雷董事長は「事業環境は平坦ではないが、引き続き事業領域の拡大に努め、グループの成長に貢献していきたい」と意欲を語る。